

研究授業「プレゼンテーション演習Ⅰ」の実施報告

関 由佳利*

Report on Implementation of an Open Class “Presentation Practice I”

Yukari Seki

(Abstract)

This paper is an enforcement report of an open class, conducted in the Department of Secretarial Studies, Takamatsu Junior College. “Presentation Practice I” is one of the major subjects in the department, which is held for the first grade students in the second semester. This paper reports the outline of the open class and considers the issues of it.

Key words : an open class, Presentation Practice

はじめに

本稿は、高松短期大学秘書科において実施した研究授業の報告である。「プレゼンテーション演習Ⅰ」は、1年次後期に実施される秘書科専門科目である。この報告書は、研究授業として実施したプレゼンテーション演習Ⅰの授業についての実施概要と検討事項である。

* 提出年月日2010年6月30日、高松短期大学秘書科准教授

1. 研究授業の実施

研究授業および検討会は、次の日程で実施された。

<研究授業>

日 時 : 2009年12月1日(火) 3校時 (13:00~14:30)

場 所 : 1号館第1演習室

科 目 : プレゼンテーション演習Ⅰ (担当: 関 由佳利)

受講対象 : 秘書科1年生Aクラス (31名)

参加者 : 短大秘書科教員6名、大学教員1名

<検討会>

日 時 : 2009年12月1日(火) 5校時 (16:20~17:50)

場 所 : 1号館1階 会議室

参加者 : 短大秘書科教員7名 (担当教員を含む)

2. 本演習の概要と授業計画

(1) 本演習の概要

現在、高松短期大学秘書科では、プレゼンテーションの科目として「プレゼンテーション概論」、「プレゼンテーション演習Ⅰ」、「プレゼンテーション演習Ⅱ」、「情報機器利用プレゼンテーション演習」の4科目が開講されている。1年次前期から2年次後期まで2年間連続して順に学べるようになっている。

本演習は、1年次後期の科目であり、本学科の3つのコース（ビジネス秘書コース、医療秘書コース、観光文化コース）全てにおいてコース必修科目となっている。また、全国大学実務教育協会が認定する「プレゼンテーション実務士」資格を取得するための必修科目でもある。

本演習では、プレゼンテーションの意義、目的を学び、口頭表現・身体表現を中心に演習を行う。人前で話をすることに慣れ、明瞭な話し方で、伝えたいことを確実に伝えることができるようにすることを教育目標としている。

(2) 授業計画

本演習は、学生の状況に応じてシラバスを一部変更し、表1のとおり実施した。

表1 授業計画

回数	授業題目	内容
第1回	プレゼンテーションの基礎知識	・プレゼンテーションについて ・あいさつの練習
第2回	プレゼンテーションの表現に関する基礎①	・プレゼンテーションの心構えと態度 ・立ち方、お辞儀の練習 ・発表練習①
第3回	プレゼンテーションの表現に関する基礎② 人前での発表の基本と自分の声の確認	・はっきりした発音と分かりやすい話し方 ・自分の声の大きさと話すスピードの確認 (声を録音)
第4回	ビデオ教材で学ぶプレゼンテーション	・早口言葉のテスト ・ビデオ教材でコミュニケーションとボディランゲージを学ぶ
第5回	ビデオ撮影による自分の姿の確認	・美しい立ち姿と美しいお辞儀の練習 ・自分の発表の姿の確認(ビデオ撮影)
第6回	一人へのアイコンタクト	・お辞儀とアイコンタクトの練習 ・発表練習②
第7回	一人へのアイコンタクトとジェスチャー	・アイコンタクトとジェスチャーの練習 ・発表練習③
第8回	(研究授業) 複数の人へのアイコンタクトとジェスチャー	・複数の人へのアイコンタクトとジェスチャーの練習 ・発表練習④
第9回	複数の人へのアイコンタクト	・発表練習⑤
第10回	複数の人へのアイコンタクト	・発表練習⑥(ビデオ撮影)
第11回	複数の人へのアイコンタクト	・発表練習⑦
第12回	複数の人へのアイコンタクト	・発表練習⑧(ビデオ撮影)
第13回	複数の人へのアイコンタクト	・発表練習⑨(ビデオ撮影)
第14回	半年間の振り返りとまとめ	・発表練習⑩(ビデオ撮影) ・まとめ
第15回	秘書科代表者卒業研究発表会	・実際のプレゼンテーションを見て学ぶ

3. 本時の概要

(1) 授業題目

複数の人へのアイコンタクトとジェスチャー

(2) 本時の指導目標

- ①複数の人へのアイコンタクトを体得させる
- ②優しい表情を意識させる
- ③ジェスチャーに慣れさせる

(3) 授業内容

前回の授業では、「アイコンタクトの二つの原則」の言葉（Look Smile Talk の原則と、One sentence One person の原則）を用いて、一人へのアイコンタクトとジェスチャーの練習を行った。本時の準備として、人数が多い場合のアイコンタクトの方法とポイントを説明した。複数の人へのアイコンタクトの方法とジェスチャーについては、第4回の授業においてもビデオ教材で説明している。

本時の授業では、前回と同じ「アイコンタクトの二つの原則」の言葉を用いて、複数の人へのアイコンタクトとジェスチャーの練習を行う。教室の前に立ち、笑顔を意識して話し始め、教室の後方の人から前方の人にジグザグに視線を移すことによって教室全体の人に話しかけ、ジェスチャーをつけて分かりやすく話す練習を行う。「アイコンタクトの二つの原則」を話し、その内容を実際に行うことによって、頭と体で理解させる。また、聞き手の立場からも、話し手のアイコンタクトやジェスチャーの効果を学ばせる。よりよいプレゼンテーションを行うためにリハーサルと本番の2回の発表を体験させる。

本時の授業内容は、表2のとおりである。まず、前回の授業を振り返り、前回と今回の関連を話す。新しく学ぶ内容を説明し、本時の目標を明確に伝える。次に、しっかりした声と活舌のための練習を行い、発表練習に入る。発表練習は、複数の人へのアイコンタクトの練習、リハーサル、リハーサルの振り返り、本番の発表、発表の振り返りの順に行う。最後に、本時の発表についてコメントをする。

表2 本時の授業内容

①前回の振り返りと本時の予定	<ul style="list-style-type: none"> ・前回は一人の人へのアイコンタクトとジェスチャー ・本時は複数の人へのアイコンタクトとジェスチャー
②発声練習 口の体操、「外郎売り」のせりふ	<ul style="list-style-type: none"> ・声をしっかり出す練習 ・活舌をよくする練習
③複数の人へのアイコンタクト 発表1	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の発表の仕方の説明 ジグザグに見ること、発表順番と役割分担 ・発表練習 ・1回目の発表（リハーサル） ・振り返り
④複数の人へのアイコンタクト 発表2	<ul style="list-style-type: none"> ・発表練習 ・2回目の発表（本番） ・振り返り
⑤本時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の発表についてのコメント

(4) 指導上の留意点・工夫

①本時の目標の明確化

本時は何を学ぶかということを学生に明確に伝え、学生に目標を意識させる。

②「外郎売りのせりふ」を用いた活舌練習

授業の始めに、発声練習と活舌練習をすることで、大きく明瞭な声を出す準備をする。

「外郎売りのせりふ」は活舌と呼吸の練習になり、声も次第に出るようになる。慣れてくるとリズムを楽しめるようになる。少し難しく、ある程度の長さがあるので達成感も味わえる。学生たちには将来も活舌練習として使ってほしいと考えている。

③動作に集中した指導

本時は動作を身につけることを目的としているため、前回の授業ですでに覚えた言葉を用いて、意識を動作に集中させるようにする。複数の人とアイコンタクトを行う、体の向きを変える、ジェスチャーをするなど、動作だけでも多くのことを意識しなければならないので、言葉については特に意識しなくてもよいようにした。

学生たちは一度に多くのことを意識することが苦手である。声、お辞儀、アイコンタクト、ジェスチャーなど、少しずつ集中して練習を行い、確実にできることを増やしていくようにしている。

④複数の人を見るための目印の使用

本時は、遠くの人から少しずつ前の人へジグザグに視線を移して話をする演習を行う。

初心者が話をするときには、壁や空中に視線が行ったり、その視線が定まらないことが多い。視線を人に向けるために、また、いろいろな方向の人に視線を移すのを容易にするために、目印を用いることにする。

1番～5番の番号札を用意し、学生に持たせる。本時の中で、番号札を持つ役割が全員に当たるようにし、全員に参加意識を持たせる。番号札を番号順に見ることによって、ジグザグに視線が動くようにする。目や顔だけで番号札の人を見るのではなく、体の正面を向けて見るようにするために、足元から体全体で動くように指導する。

⑤発表をする立場と聞く立場からの理解

発表者は、ジグザグに見ることによって教室内の聞き手の様子がどのように目に入るか、ジェスチャーをすることによって伝えようとする気持ちがどのように変わるかを体験する。聞き手は、発表者の視線をどのように感じるか、ジェスチャーによって話の伝わり方がどのように変わるかを体験する。この両者の立場から、ジグザグに見ることとジェスチャーをすることの大切さを理解させる。

⑥リハーサルと本番の2回の発表

動作を身につけるには、何度も繰り返して練習することが大切である。また、気づいたことをすぐに改めることも大切である。1回の授業の中でリハーサルと本番の2回の発表を行う。リハーサルでは、初めての動きである複数の人へのアイコンタクトがどのくらいできるかを確かめ、本番ではよりスムーズな動きができるようにする。

⑦振り返りシートの活用

リハーサル、本番のいずれの場合も、振り返りシートに記入させる。振り返りシートには、本時の目標の達成度を○印で記入するチェック表と具体的に反省点を書く記述欄を用意する。自分の発表をすぐに振り返り、具体的に書くことによって自らの問題点を意識させる。リハーサルの反省を本番に生かし、本番の反省を次の週の発表に生かすように指導する。

振り返りシートは、授業の最後に集め、コメントを記入して次の週に返す。コメントを書くことで、学生にアドバイスができ、学生のやる気を高めることができる。また、毎週コメントを書いて返すことによって学生とコミュニケーションをとることもできる。プレゼンテーションの技術や話の内容も大切であるが、やる気を高めることも大切である。一回一回の発表に真剣に取り組ませるために、学生の気づきを認め、やる気を応援するメッセージを書くようにする。

(5) 学生の状況

本演習は、秘書科の科目であることを意識して、身だしなみ、立ち居振る舞いにも重点を置いている。長い髪をまとめる、前髪を止める、スーツを着る、きれいなお辞儀を心がけるなど一つひとつのことを細かく指導している。毎週根気強く言い続けていると、徐々にではあるが、学生は自ら身だしなみや立ち居振る舞いに気をつけるようになってきている。

本時の演習が研究授業ということもあり、学生たちは通常よりも熱心に取り組んでいた。学生たちは先生方の前でも落ち着いて発表ができていた。人前で話をすることに慣れてきたようである。

本時の目標である、複数の人へのアイコンタクトを学ぶことと、ジェスチャーに慣れることは達成できたと思う。視線は安定してきており、アイコンタクトを取り、ジェスチャーを行いながら話ができている。しかし、優しい表情を意識することはまだまだ練習が必要であると感じた。

また、お辞儀の後のアイコンタクトができるようになってきた。発表の最初と最後にお辞儀をするが、学生は最後のお辞儀の後のアイコンタクトが苦手であった。本演習の最初の頃は、多くの学生が、最後のお辞儀の後、聞き手に顔を戻さずアイコンタクトをしないまま、すぐに向きを変え、走るようにして自分の席に戻っていた。しかし、本時の演習では、ほとんどの学生が、最後のお辞儀の後に、聞き手ときちんとアイコンタクトを取り、落ち着いた態度で席に戻ることができていた。

4. 授業に対する参観者の評価

(1) 授業を積極的に評価できる点

- ・授業の始めには、身だしなみを整えて、起立してあいさつをするように指導し、出席確認の際には、手をひざの上に置いて、アイコンタクトをとりながら返事をするように指導していた。
- ・複数の人へのアイコンタクトを習得させるための目印の工夫があり、学生が実際に複数の人を見ることができていた。
- ・1回目の発表の後、振り返りをさせて2回目に進むことによって、発表がよくなった。
- ・全員が積極的に2回の発表を行った。

- ・このクラスの学生は、日頃なかなかやる気を見せないけれども、この授業では、ほとんどの学生がまじめな態度で臨んでいた。

(2) 授業の改善にかかわる点

- ・学生の力をつけるためには、技術よりも内容を重視した指導が大切である。
- ・大きな声、自然な動きが身につくような、指導の工夫が必要である。
- ・1文ずつ体の向きを変えるのは不自然である。
- ・ジェスチャーのことなど、学生の発表後すぐにコメントをして指導をするとよいのではないか。
- ・「プレゼンテーション概論」「プレゼンテーション演習Ⅱ」「情報機器利用プレゼンテーション演習」の科目と密に連携を取り、効果的な指導を考える必要がある。
- ・90分で行うには内容が少ないのではないか。大学生らしい内容を考える必要がある。
- ・いつもの学生より暗い印象で、心から楽しんでワクワクしながら授業を受けていなかった。学生が生き生きしていない。
- ・学生に緊張感がなく、ダラダラしており、私語をしたりふざけたりしている学生がいた。
- ・授業に乗りすぎる学生、乗ってこない学生への対応を考えなければならない。

5. まとめ—授業改善の課題—

プレゼンテーション演習Ⅰは、口頭表現・身体表現を中心とした演習である。人前に立つことを怖くないようにすること、アイコンタクトをしっかりとって話することに力を入れてきたが、内容が不足していた。しかし、技術を身につけるにはかなりの時間と努力が必要なことも事実であり、内容と技術のバランスが大切だと感じている。

今後は、次のことを中心に授業を改善していきたい。まず、技術とともに内容を重視する指導である。各自の考えをまとめて発表する機会を増やしていきたい。次は、大きな声、自然な動きが身につく指導である。大きな声に関しては、現在の発声練習の他に、いろいろな練習を試みる必要がある。自然な動きに関しては、足元からの移動を改め、他の方法を取り入れていきたい。次は、一人ひとりに対するコメントを取り入れた指導である。全員に向けてのコメントと個人に向けてのコメントを行い、きめこまかな指導をしていきたい。最後に、関連科目との連携である。「プレゼンテーション概論」、「プレゼン

テーション演習Ⅱ」、「情報機器利用プレゼンテーション演習」との連携により、学生にプレゼンテーションの力を付けていきたい。

[謝辞]

研究授業、検討会に参加していただき、貴重なご意見をいただきました高松大学・高松短期大学の先生方に、心から感謝申し上げます。

[資料] 振り返りシート

①前回の授業の振り返りシート

②今回の授業の振り返りシート

プレゼンテーション準備 氏名 _____ 所属 _____

アイコンタクトの二つのポイント

1. Look Smile Talk のポイント

- ※ 聴衆の顔の人を見て、笑顔で顔に出すというポイント
- ※ 一時視を外して、顔も挙げて顔に出さない、ということである

2. One sentence, One person のポイント

- ※ 聴衆は各一人に合わせる。その際相手に合わせてワンセンテンス、２～４秒ほど視線を止めて顔がわかるようにする。
- ※ 一発で一人にアイコンタクトし、次の聴衆では誰か一人にアイコンタクトして話す。

高松いたします。
 貴、口口口と申します。
 本日は、アイコンタクトの二つのポイントをお授けいたします。
 以上でございます。
 ありがとうございます。

一人へのアイコンタクト 1回目

(1) 振り返り (口印を入れてください)

	できた	少しできた	頑張りたい
1 アイコンタクト (視線を寄む)			
2 笑顔を露出			
3 明るく大きな声			
4 内容を明確に話した			
5 ジェスチャー			

(2) 感想

一人へのアイコンタクト 2回目

(1) 振り返り (口印を入れてください)

	できた	少しできた	頑張りたい
1 アイコンタクト (視線を寄む)			
2 笑顔を露出			
3 明るく大きな声			
4 内容を明確に話した			
5 ジェスチャー			

(2) 感想

プレゼンテーション準備 氏名 _____ 所属 _____

アイコンタクトの二つのポイント

1. Look Smile Talk のポイント

2. One sentence, One person のポイント

① アイコンタクト、笑顔
 高松いたします。貴、口口口と申します。
 ② 本日は、アイコンタクトの二つのポイントをお授けいたします。
 ③ 1つ目は
 ④ 2つ目は
 ⑤ 以上でございます。ありがとうございます。
 (アイコンタクト、笑顔)

聴衆へのアイコンタクト 1回目

(1) 振り返り (口印を入れてください)

	できた	少しできた	頑張りたい
1 シラザラのアイコンタクト (視線を寄む)			
2 笑顔を露出			
3 明るく大きな声			
4 内容を明確に話した			
5 ジェスチャー			

(2) 感想

聴衆へのアイコンタクト 2回目

(1) 振り返り (口印を入れてください)

	できた	少しできた	頑張りたい
1 シラザラのアイコンタクト (視線を寄む)			
2 笑顔を露出			
3 明るく大きな声			
4 内容を明確に話した			
5 ジェスチャー			

(2) 感想

(2) 聴衆の立場から見た「聴衆へのアイコンタクト」と「ジェスチャー」